

固定資産 第2問 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、問題文で指示されている勘定科目以外は、許容勘定科目表から最も適当と思われるものを選ぶこと。

1. 長野商事(株)は、×1年11月1日に営業用自動車(現金販売価額¥2,000,000)を割賦契約で購入した。代金は毎月末に支払期限の到来する額面¥210,000の約束手形10枚を振り出して支払った。なお、利息相当額は前払費用勘定を用いて計上するものとする。
2. ×1年11月30日に1.の約束手形のうち、期日の到来したものが当座預金口座より引き落とされた。なお、利息は毎月同額を計上するものとする。
3. 群馬工業(株)は、×2年2月1日に備品(現金販売価額¥800,000)を割賦契約で購入した。代金は毎月末に支払期限の到来する額面¥168,000の約束手形5枚を振り出して支払った。なお、利息相当額は支払利息勘定に計上するものとする。
4. ×2年3月31日に、群馬工業(株)は決算日を迎え、3.で計上した支払利息のうち未経過分を振り替える処理を行う。なお、利息は毎月同額を計上する処理を行っている。
5. 岐阜産業(株)は、国から国庫補助金として現金¥2,000,000を受け取った。
6. 岐阜産業(株)は、5.の国庫補助金に自己資金¥3,000,000を合わせた¥5,000,000で備品を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。
7. 岐阜産業(株)は、6.の備品について直接減額方式による圧縮記帳を行った。
8. 岐阜産業(株)は、決算にあたり6.の備品について、減価償却費の計上を行う。耐用年数10年、残存価額ゼロ、使用月数は12か月とし、仕訳方法は間接法を採用している。
9. 三重産業(株)は、当期首に備品の取得のために国より交付された補助金¥500,000を受け取り、当座預金とした。また、当該補助金と自己資金により、備品¥1,500,000を取得し、代金は今月末に支払うことにした。なお、この備品については補助金に相当する額の圧縮記帳(直接減額方式)を行った。
10. 三重産業(株)は、本日決算日のため9.の備品について定額法(残存価額ゼロ、耐用年数5年)により、減価償却を行う。なお、記帳方法は間接法によること。

固定資産 第2問 模範解答

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	車両運搬具 前払費用	2,000,000 100,000	営業外支払手形	2,100,000
2	営業外支払手形 支払利息	210,000 10,000	当座預金 前払費用	210,000 10,000
3	備品 支払利息	800,000 40,000	営業外支払手形	840,000
4	前払利息	24,000	支払利息	24,000
5	現金	2,000,000	国庫補助金受贈益	2,000,000
6	備品	5,000,000	当座預金	5,000,000
7	固定資産圧縮損	2,000,000	備品	2,000,000
8	減価償却費	300,000	備品減価償却累計額	300,000
9	当座預金 備品 固定資産圧縮損	500,000 1,500,000 500,000	国庫補助金受贈益 未払金 備品	500,000 1,500,000 500,000
10	減価償却費	200,000	備品減価償却累計額	200,000

【解説】

4. 未経過分； $¥40,000 \times 3 \text{ か月} / 5 \text{ か月} = ¥24,000$
8. $(¥5,000,000 - ¥2,000,000) \div 10 \text{ 年} = ¥300,000$
10. $(¥1,500,000 - ¥500,000) \div 5 \text{ 年} = ¥200,000$